

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ホテルアベストグランデ高槻	階数	地上9F 地下1F
建設地	大阪府高槻市芥川町1丁目53番1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年1月21日
敷地面積	1,281 m <sup>2</sup>	作成者	橋田 典博
建築面積	978 m <sup>2</sup>	確認日	2019年1月24日
延床面積	5,244 m <sup>2</sup>	確認者	橋田 典博



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.6

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	周辺地域との交流スペースを確保することで、地域に密着したホテルを目指した。駅前ということで、比較的高層な建物が多い中で、周辺の景観を損なわないよう奇抜なデザインとすることなく、存在感のある建物計画とした。	<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	敷地全体を使って計画しているなかで、出来る限り各階にバルコニー・庇を設け、室内にはカーテンを設置することで昼光を制御し、グレア対策に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b>	ホテル内のすべての照明については、LED照明器具を採用することで、設備システムの効率化に努めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> CO <sub>2</sub> 排出抑制に努めた。
<b>Q2 サービス性能</b>	各客室は、16㎡以上を確保し、一般のビジネスホテルよりゆったりとした居住空間に配慮した。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	水栓を節水コマ付きとし、水資源保護に努めた。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0135

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	ホテルアベストグランデ高槻						
	建設地	高槻市芥川町1丁目53番1						
	用途/区分	ホテル 集会所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						4	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.3	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.8	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		